

第一回 チヤイナ服の起源と発展の歴史

ご挨拶

みなさん大阪から今晚は。今回からいきなり始まったこのコーナーでは毎回チヤイナ美人さんをお迎えし、チヤイナ服についてのマニアックで勉強になる話をしていきたいと思っています。インターネットでも同じコーナーを見たとかいう人もいるかもしれませんがね。

さて、まず今回は「チヤイナ服の起源と発展の歴史」についてお話ししましょう。

図.1



図.2



チヤイナ服の起源は馬に聞け！

あの素晴らしいデザインはどこで生まれたのか？それは古くから中国の東北に住み、狩猟と遊牧の生活を送っていたツングース系民族（アルタイ語系）が着ていた民族服にあると言われてます。

図1はその民族の一つ、オロチョン族の狩人の乗馬服で、スリット（裾の切れ目）は4つありました。これは馬に乗る時、動きがとり易いように衣服が改良されていった結果です。

そのツングース系民族の中でも、後に最も勢力を振るう事になるのが、有名な満州族です。

同族の女性が着ていたワンピース型の長衣が、中国人の多数を占める漢民族にチヤイナ服を広めるきっかけになりました。

満州族の婦女子がそれを着ていた！

そして1644年に「明」が滅亡し、満州族が「清王朝」を興しました。その王朝の祖「ヌルハチ」が編成した軍隊が八旗の旗印（満州旗と呼ばれる）で治められていたことから、漢民族は満州人達を「旗人（チーレン）」と呼ぶようになりました。

そこで、チーレンの婦女子が着る長衣（バオと呼ぶ）の事を「チーバオ」と呼ぶようになりました。これが日本でいうチヤイナ・ドレスの中国での呼び名で、現在もこう呼ばれています。

清王朝時代の満州貴婦人が着ていたチーバオは図2のような形をしており、大変豪華なものでした。

ただし平民はこのような服を着ることはなく、裕福な生活を送る貴族たちが着ただけでした。

そして清建国から100年後、漢民族の婦人達の間でチーバオが流行し始め、中国各地に広がっていきました。

チヤイナ服はただの流行だった！

1912年に「中華民国」が生まれ、チーバオがついに国民礼服として規定されました。そして、その時代に作られたチーバオは生活を快適に送るための機能的改良、ファッションとしてのデザイン的改良を加えられ、どんどん洗練されていきました。

その後、チーバオは北京を中心にして漢民族の間にも広まっていましたが、実際にチーバオが着られたのは都会またはその周辺のみで、中国全土にわたって着られたわけではないようです。

現在ではチーバオを台湾や香港以外ではあまり見かけることはなくなったそうですが、そのイメージは戦争を経て日本へ輸出され、独自の文化を形成することになりました。それについてはまた今度お話ししましょう。

いらつしゃ〜

今回のチヤイナ美人さん



「ジューン」(スターグラディエーターより)

COMMENT

最近のチヤイナものキャラの中で最高なのがこの人です。肩の開いたところから裏地の刺繍が見えているところが一番の見所じゃないでしょうか。「スタグラ2」も期待大！！

次回は「図解！チヤイナ服のデザインとその魅力」だ！

カブコン

教えて聞かないひと〜っ！

さて、今回から始まったこのコーナー。潜在的にアレだった人はピンと来たかな？
ところで作者は読者の意見を待つこともあるぞ！これから書籍を探究するか？
それともキョンシー娘を探究するか？それとも吸血鬼の続きが読みたいか？（違うね）
君達の意見で内容がコロコロ変わる事もあるぞ！気が向いたら本書を出してみよう。だいたい。
宛先は30ページの住所「チヤイナ服探究」係まで。



ぼばちん

株式会社カブコン第一制作部アシスタント（通称：アシ）

自称チヤイナ服探究家。そしてゲーム業界を走り歩く選世人。無職で死にかけていたとき、チヤイナ服世界制覇の野望を胸にカブコンへ入社。現在はデザイン室で怪しい絵を鋭意制作中。